

荒川の治水事業効果

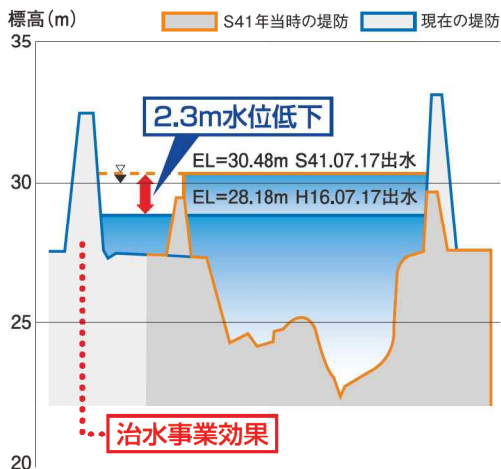
平成16年7月、平成23年6月出水による浸水被害を防止

昭和41年7月出水、及び昭和42年8月羽越水害により荒川では堤防の決壊等によって甚大な被害が発生しました。羽越水害を契機に荒川は一級河川に指定され、直轄による河川改修を開始し、「災害復旧助成事業」等の改修の促進により、昭和47年3月に一連区間の堤防等の施設が完成しました。

また、洪水調節効果機能を持つ大石ダム（昭和53年完成）と横川ダム（平成20年完成）とが完成したことから、出水時にダムに貯留を行い、下流の水害の軽減（流量・水位低下）に寄与しています。

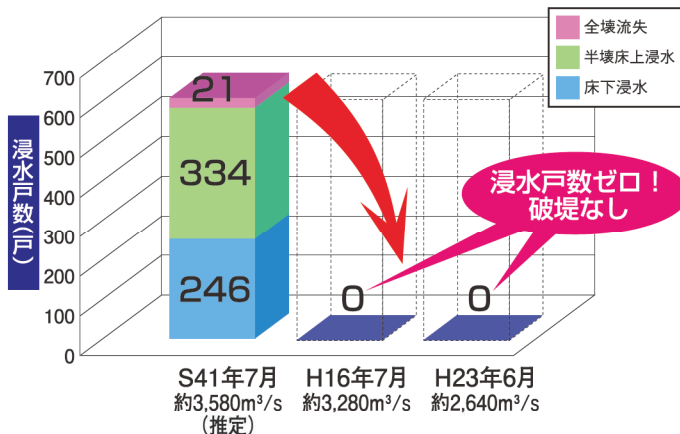
平成16年7月出水、及び平成23年6月出水は、昭和41年7月出水と概ね同規模の洪水でしたが、羽越水害以後の河川改修事業により、洪水による浸水被害を防止することができました。

破堤箇所付近(13.5km)水位比較

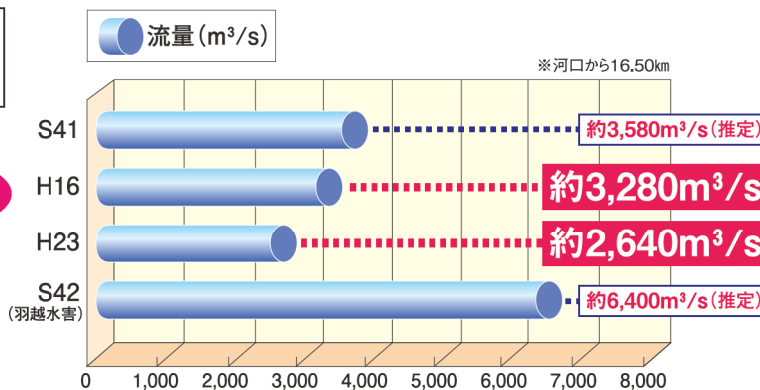


丸山大橋から下流を望む(平成16年7月出水)

直轄区間における外水による浸水戸数比較



上関水位・流量観測所における流量

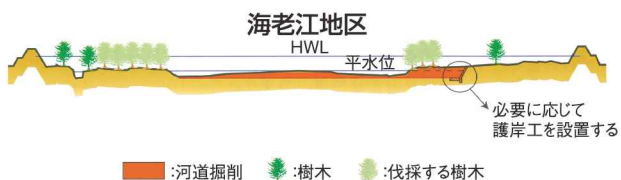


荒川の河川整備事業

河川整備計画における整備内容

- 築堤及び河道掘削
- 水衝部対策及び堤防強化
- 河口砂州及び支川合流点対策
- 環境整備

- 洪水時の水位を低下させ、安全に洪水を流下させるため、河道掘削や支障となっている樹木の伐採を行います。
- 掘削に当たっては、既存生態系の保全とともに、多様な水際環境の創造に努めます。



羽越河川国道事務所では、平成16年3月10日に「荒川水系河川整備計画」を策定し、概ね30年間の河川整備の目標を取り決め、整備を進めています。現在は、洪水を安全に流下させるため、河道掘削を実施するとともに、「清流荒川」を保全するため河川環境整備を実施しています。



河道掘削(海老江地区)